

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年10月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570201077		
法人名	社会福祉法人 信濃川令終会		
事業所名	グループホームこうなん		
所在地	新潟県長岡市渡沢町字早田53番地 (電話) 0258-23-7511		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	8月28日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人、非常勤 0人、常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1階 ~ 2階 部分		
------	----------------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 210 円	昼食 350 円	
	夕食 340 円	おやつ 円	
	または1日あたり		円

### (4) 利用者の概要 (20年6月現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2		5名	
要介護3	7名	要介護4		3名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 87 歳	最低 80 歳		最高 97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連 長岡中央総合病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、長岡市郊外の山ふもとの田園地帯に位置し、近くには温泉もあり自然豊かでのどかな環境である。国道17号線やJR上越線越後滝谷駅から近く、交通の便もよい。同法人の特別養護老人ホームやケアハウスと同じ敷地内にあり、協力体制もとれている。2ユニットであるが、建物はユニットごとに独立した木造一部2階建てである。近隣住民の要望もあって開設された経緯があり、特別養護老人ホームともども住民に認知され、交流も深い。中越地震の際に、地域の方に法人として避難所的に施設を使っていたいただいた等の経緯もあり、法人と地域の絆がさらに深まったと運営者は実感している。ホームの運営においては、管理者は利用者の尊厳を踏まえた理念を示し、職員も利用者主体のケアの実践に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での課題について、運営者・管理者・職員で検討し、改善に取り組んだ。「同業者との交流」については、情報交換等、地域の他の事業所と必要な連絡を取りつつある。グループホーム協会の紹介を受け、他の先駆的な事業所の視察研修を行うなど、質の向上に取り組んでいる。「栄養摂取や水分確保の支援」については、法人の管理栄養士による栄養バランスを考慮した献立を基にした食事の提供に努めるとともに、毎食後の食事量とおおよその水分量の確認を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価を実施し、職員一人ひとりの評価項目に対する意識付けを行っている。評価の結果とその内容については、管理者と職員のミーティングで話し合い、改善できることは実践している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回開催される運営推進会議は、利用者代表・家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター・同法人特別養護老人ホーム施設長並びに副施設長・ホーム管理者並びに計画作成担当で構成されている。ホームの活動や自己評価及び外部評価の報告もされている。ケアの取り組みやリスクマネジメントを話し合う場面もあり、「防災」や「拘束とは」など学びの機会となっている。直近の会議では、鍵をかけないケアについて、管理者からその意図も含めて報告がされ、安全の確保と拘束、そして利用者の尊厳について、参加者それぞれの立場から意見交換がされた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時や必要な連絡をする際に意図的に意見・要望を聞きだすようにしており、管理者・職員とも家族が話しやすい対応、雰囲気づくりに努めている。寄せられた意見・要望はミーティングで話し合い、課題を検討してサービスの改善に結びつけている。また、担当職員が毎月作成する「お便り」にて、利用者一人ひとりの暮らしぶりを丁寧に情報提供している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年3回発行の「広報誌」を地区に全戸配布し、地域住民や関係機関に法人の情報を発信している。日常的には、毎日の散歩途中での挨拶や会話がなされたり、季節の野菜や山菜のお裾分けがあったり、地域の中で「お隣さん」としての交流ができています。老人会等の地域行事に参加したり、近隣の小中学校や幼稚園との交流もある。また、災害対策においても、地域の自主防災会との連絡体制ができており、避難訓練への参加協力を得ている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	法人理念を踏まえつつ、利用者が主体であり利用者の尊厳を守ることが基本として、「生きがいと安らぎのある暮らし」という事業所独自の理念を掲げている。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	理念の実践のために、日常のケアの中で、あるいはミーティングの中で意図的に、管理者と職員との話し合いがなされている。管理者は、「利用者の生きがいを見出すとき、最初からできないと諦めずに、どうしたらできるだろうとその可能性を否定しないことを大切にしたい」と考え、職員もケアの実践の中でその実現に取り組んでいる。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
		家族や地域への理念の浸透	年3回の「広報誌」を地区に全戸配布し、地域住民や関係機関に情報発信している。家族には、利用者一人ひとりに担当職員が作成する毎月の「お便り」を通じて、利用者の様子とホームの実践を伝えるよう努めている。		
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	毎日の散歩途中での挨拶や会話がなされたり、季節の野菜や山菜のお裾分けがあったり、地域の中で「お隣さん」としての交流ができています。老人会等の地域行事に参加したり、近隣の小中学校や幼稚園との交流もある。同敷地にある特別養護老人ホームと合同で開催する夏祭りには地域の人々の参加協力が得られ、地域と一体となって活動する機会となっている。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	全職員で自己評価を実施し、職員一人ひとりの評価項目に対する意識付けを行っている。外部評価の結果とその内容についてはミーティングで話し合い、改善できることは実践している。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回開催される運営推進会議は、利用者代表・家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター・同法人特別養護老人ホーム施設長並びに副施設長・ホーム管理者並びに計画作成担当者で構成されている。ホームの活動や自己評価及び外部評価の報告もされている。ケアの取り組みやリスクマネジメントを話し合う場面もあり、「防災」や「拘束とは」など学びの機会となっている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営体制や防災体制について、長岡市の担当者と連絡を取り合い連携を図っている。市の介護予防推進室とも、地域密着型サービスについての運営や実情等の情報交換を行うなど、考え方や実態を共有するよう努めている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会へ参加し、全職員が出席するミーティングにて内容を共有すると共に、ケアの実際の場面を想定した話し合いや確認がされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の様子は、毎月の「お便り」と面会時に報告がされている。特に、担当職員が作成する「お便り」には利用者一人ひとりの暮らしぶりが丁寧に記載され、家族との信頼関係構築に役立っている。受診時の結果はその都度、金銭管理及び健康状態については必要に応じて報告がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や必要な連絡をする際に、意図的に意見・要望を聞きだすようにしており、管理者・職員とも家族が話しやすい対応、雰囲気づくりに努めている。寄せられた意見・要望はミーティングで話し合い、課題を検討しサービスの改善に結びつけている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のミーティングや日常の場面において、職員の意見・提案を引き出すよう問いかけ、必要な提案は活かされている。また、運営者が直接職員との個別面談を実施するなど、法人としての取り組みもなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限とされ、異動があった際には適切に引継ぎがなされている。開設当初から大幅な異動はなく、利用者との馴染みの関係が保たれている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人で共通したマニュアルが整備されており、必要に応じて見直しもされているが、ホームの実態に合わせたマニュアルの整備はなされていない。		ホームの実態にあったマニュアルは、新人・異動職員の育成場面において基礎介護技術・知識の向上を助け、ホームのサービス水準を確保するひとつの方法として有効であると考えられる。今後の整備に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて年1回以上必要な外部研修に参加することができるよう配慮している。法人内の研修も適宜計画されている。研修報告はミーティング時などに行い、ホームのケアに還元している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換等、地域の他の事業所と必要な連携を取りつつある。また、課題事項を解決するために、全国認知症グループホーム協会の紹介を受け、他の先駆的な事業所の視察研修を行うなど、質の向上に取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員一人ひとりに個別面談を実施するなど、職員の話を書く機会を設定している。また、管理者や計画作成担当者は、より職員に近い立場として意見や要望・悩みを聞くようにし、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問調査により必要な情報を事前に把握するよう努めている。在宅での様子や生活歴等を把握し、馴染みやすい環境づくりに活かしている。また、環境変化によるダメージを考慮し、入居後に適宜アセスメントの見直しを行い、ケアに活かしている。利用開始前の見学や日中の体験利用も柔軟に受け入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理・畑仕事・風習など、利用者の知識や得意なこと等を生活の中に活かして、利用者自身が活躍できる活動場面をつくり、共に楽しみながら生活を支援している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や日常の連絡、居室担当者による「お便り」等様々な機会を通じて、家族との情報共有を図り、協力関係の構築に努めている。受診対応の協力を得たり、家族が参加できる行事も実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、「利用者の生きがいを見出すとき、最初からできないと諦めずどうしたらできるだろうと、その可能性を否定しないことを大切にしたい」と考え、職員もケアの実践の中で、利用者の思いを丁寧に聞きながらその実現に取り組んでいる。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにセンター方式の一部を活用し、生活歴や生活環境等、これまでの暮らしの情報を把握し、職員で共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の想いと利用者の希望を丁寧に聞きながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月実施し、また、計画の見直しは状況の変化に応じて柔軟に行っている。モニタリングは担当職員だけでなく、あえて客観的な視点を保つために他の職員が計画的に行うようにしている。見直しにおいては、利用者・家族の要望をきちんと聞くとともに、毎月のミーティングでの職員の意見・気づきを大切に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な対応</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のこれまでの暮らしが継続できるよう個々の希望に応じて、馴染みの美容院やかかりつけ医の利用、自宅までのドライブ、図書館へ本を借りに行く等の支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する医療機関へ受診したり、往診を受けられるよう支援している。また、ホームの協力医療機関や嘱託開業医とも連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用当初に、重度化した際のホームの対応や、併設施設を含む関連施設の利用についても説明がなされている。また、利用者の状況変化の都度、本人・家族・かかりつけ医と十分に話し合い、方針を決め支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にケアが実践されており、利用者の行動を否定せず、個性性を重視した声かけや対応をしている。記録等は施設できる場所に保管し、個人情報の取り扱いに留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望とペースを尊重し、個性のある支援を行っている。外出や入浴など、状況に合わせて柔軟な支援がなされている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから始まり、調理・食事・後片付けも、利用者と職員が可能な限り一緒に実践している。利用者は、調理も後片付けも自然に自分の役割として行っていた。法人の管理栄養士から、カロリーやバランスをチェックしてもらった献立を基本としているが、利用者の好みや季節の食材により、柔軟に変更している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄のリズムを把握して、それに応じた声かけや誘導を行い、排泄の失敗を軽減できるよう適切な支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが希望する時間帯に毎日でも入浴することができる。また、入浴の拒否があっても無理強いせず、声かけのタイミングに配慮しながら、本人が入浴したいときに入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・畑仕事・買い物・手芸など、職員は利用者のできることを得意なことを把握し、生活の場面で活かしてもらい、その都度感謝の気持ちを伝えるようにしている。ホームのリビングの窓越しには、利用者と職員と共に手入れしている畑があり、収穫の喜びも分かち合っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り散歩に出かけたり、週3回から5回程度の買い物に出かけたり、一人ひとりの希望にそった個別の外出など、日常的に外に出かける支援を行っている。散歩の際には、近所の方との挨拶や会話をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加して、全職員が出席するミーティングで学びの内容を共有している。拘束をせずにすむ支援方法を考え、拘束のないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、利用者の所在の確認と玄関のチャイムにより安全の確保に努めている。外に出かけたい様子の利用者には、職員が付き添って対応している。運営推進会議において、鍵をかけないケアについて管理者からその意図も含めて報告し、参加メンバーにも理解してもらうよう努めている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や誤嚥等のリスクの高い方について職員間で情報の共有を図り、事故を未然に防ぐための対策をとっている。また、事故報告書等の活用により再発の防止に努めている。事故後の対策が適切であったか、個別の介護計画のモニタリングにおいて検証している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人の防災委員会により、AEDの取り扱いや心肺蘇生法を学ぶ救命講習会が年に数回開催されており、ホーム職員も講習を受けている。しかし、ホームで実際の場面を想定した実践的な訓練は行われていない。		救命講習による学びをホームの環境の中でも活かして、実際に必要かつ適切な対応が取れるよう、夜勤における急変等、実際の時間帯や場面を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回、消防署ならびに地域の自主防災会の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。災害時には連絡網で自主防災会の方に連絡し、協力を得られる体制になっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による栄養バランスを考慮した献立を基に、利用者の嗜好や季節の食材を取り入れた食事の提供に努めている。毎食後の食事量とおおよその水分量の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のリビングダイニングは、十分な広さと採光を考慮した造りである。畳の小上がりスペースもあり、くつろげる環境である。大きな窓越しには、朝顔のつるを這わせてつくった緑のカーテンがあり、居心地のよい空間づくりがなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各部屋ごとにトイレと洗面台が設置されている。居室には、自宅で使い慣れた家具や日用品などがあり、その人らしい空間づくりに努めている。</p>		